

Chapter 2

オーディオ／MIDI データを Cubase SX に録音／入力する

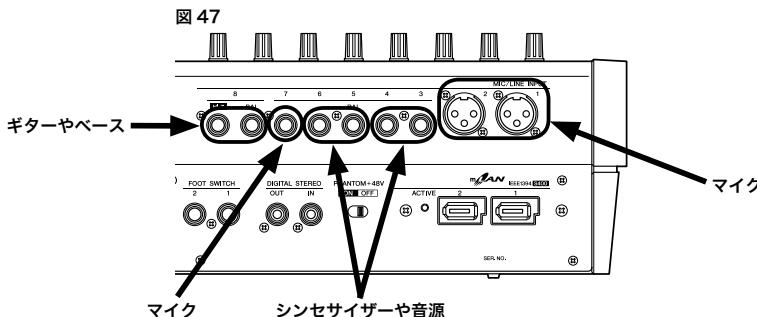
ではこれから、01X のインプットチャンネルからのオーディオを Cubase SX のオーディオトラックに録音してみましょう。

01X のインプットチャンネルを理解する

01X のインプットチャンネル 1～8 には、すべてマイクプリアンプが装備されているので、直接マイクを接続することができます。

さらに、インプットチャンネル 1、2 は、コンデンサーマイクへのファンタム電源を供給することができる XLR 端子を装備しています。またギターやベースなどのハイインピーダンス出力の楽器は、インプットチャンネル 8 の「Hi-Z」端子に接続することができます。

ここでは 01X のインプットチャンネル 1、2 にマイクを、3-4、5-6 をシンセサイザーや音源などのステレオ接続の楽器を、そして 7 は再びマイク、8 はギターやベースを接続する、という想定で解説していきます。



01X の入力と一致したオーディオトラックの作成

Cubase SX で新規プロジェクトを起動します。その際、トラックをいくつ作るかを選択する必要があります。ここでは、上記の 01X での設定をそのまま制作に活かせるようにトラックを作成しておきましょう。

新規プロジェクトを開く際に「空白」を選択すると(図48b)、トラックが何もない状態でプロジェクトが開きます(図48c)。

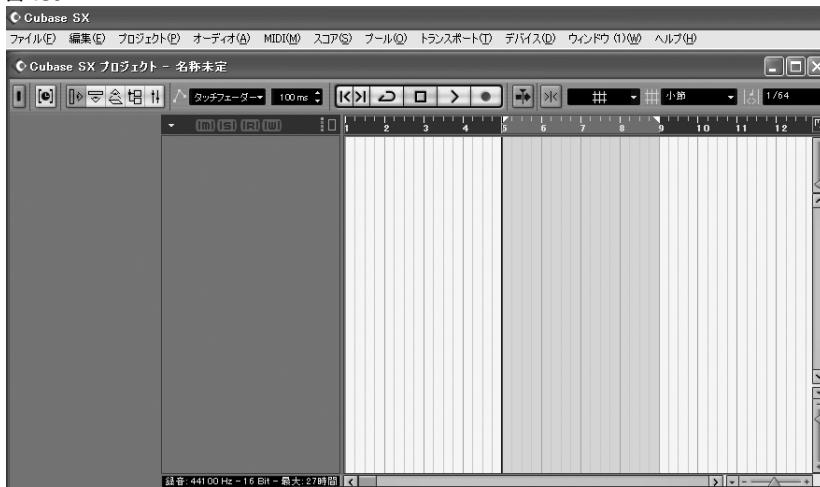
図 48a



図 48b



48c



メニューの「プロジェクト」から「トラックを追加」、そして「複数のトラックを追加」をクリックし設定します（図 49）。

ここでは、モノラルを4トラック、ステレオをペアで2トラックというようにしてみました（図 50）。

図 49

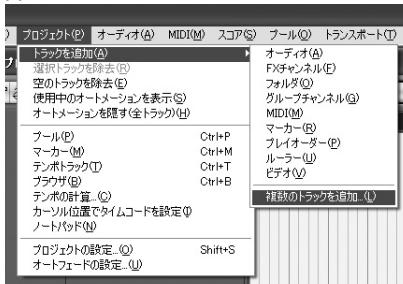
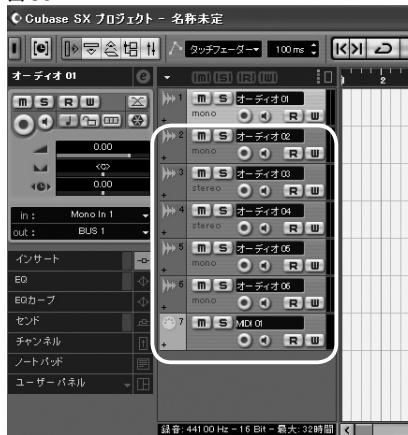


図 50



ここでは 01X のチャンネル構成と Cubase SX のトラック構成がぴったりと一致するように、トラックの位置を変更しています。このトラック設定はテンプレートとしても保存することができます。必要に応じて名前をつけてテンプレートファイルとして保存してください。

またトラックはあとから追加できますので、制作の環境に合わせてトラックを追加してください。

01X のインプットと Cubase SX のインプットを呼応させる

Cubase SX はデフォルト状態では、インプットチャンネルがステレオになっています。シンセサイザーなどをステレオで録音する際にはこの設定でいいのですが、01X の8チャンネル分のインプットを活かすために、Cubase SX の入力設定を変更します。

VST コネクションの設定

メニューの「デバイス」から「VST コネクション」を選択すると(図 51)、VST コネクション設定ウィンドウが開きます。

「入力」が選択されている状態で、「バスの名称」の項目では図 52 のように「IN 1」「左」「右」となっています。

図 51

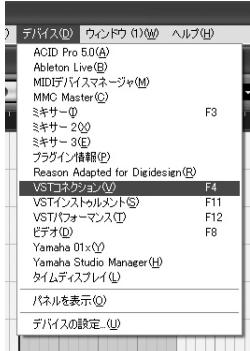
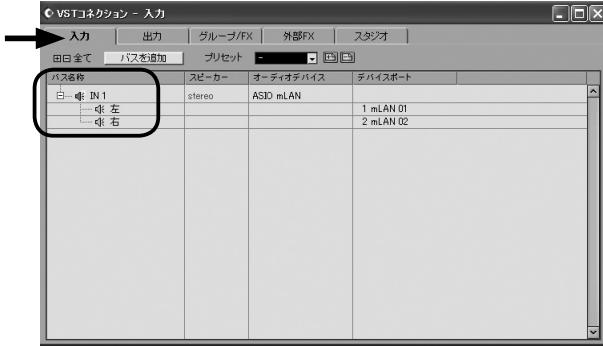


図 52



ここで「IN 1」を右クリックして現れるメニューから「バスを除去」をクリックすると(図 53)、図 54 のようなウィンドウが開くので、「はい」をクリックします。するとバスが除去されます。

図 53

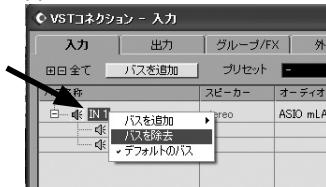
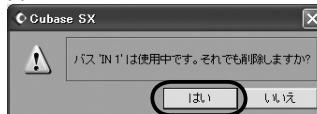


図 54



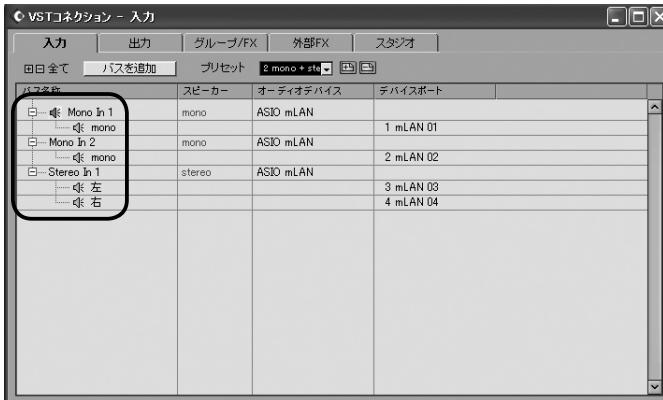
次に、「プリセット」をクリックして、現れるメニューから「2 mono + stereo in」をクリックします(図 55)。

すると 4 チャンネル分のバスが追加されます(次ページ図 56)。

図 55



図 56



さらに「バスを追加」(図 57) をクリックして「Stereo」をひとつ(図 58)、もう一度「バスを追加」で「mono」をふたつ追加します(図 59)。

図 57



図 58



図 59



すると、図 60 のように8チャンネル分の入力が設定されます。

これで、01X のすべてのインプットチャンネルが Cubase SX のインプットと接続された状態になりました。

図 60



この設定は、プロジェクト（曲）に保存されます。

もし、他の曲でもこの設定を呼び出したいときには、「+」マークをクリックして（図 61）プリセットとして名前を付けて保存しておきましょう（図 62）。そうすれば、次回新しいプロジェクトを開いたときにもプリセットメニューに名前が現れるので、選択すれば即座にセッティングが完了します。

図 61



図 62



その他のプリセット

プリセットの中には、「8 mono in」という8チャンネルのインプットをすべてモノラルにするものもあります。これはドラムなどをマルチマイキングで同時に録音するときに便利なセッティングです（図 63）。

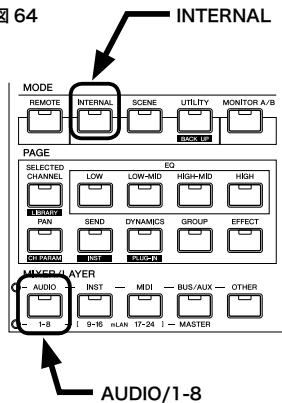
図 63



マイクを接続しオーディオトラックに録音する

MODE セクションで [INTERNAL] ボタンを押し、次に MIXER/LAYER セクションで [AUDIO / 1 – 8] ボタンを押します。

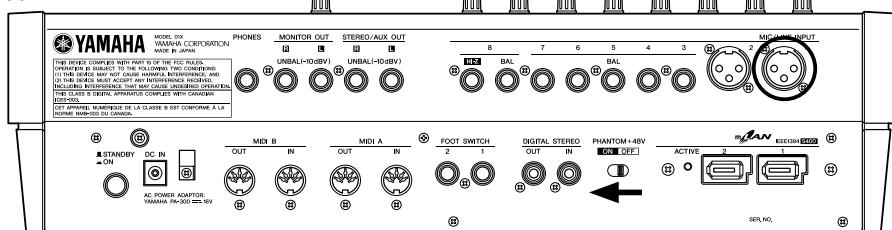
図 64



ここではマイクをインプットチャンネル1に接続し、Cubase SX のオーディオトラックの1に録音します。

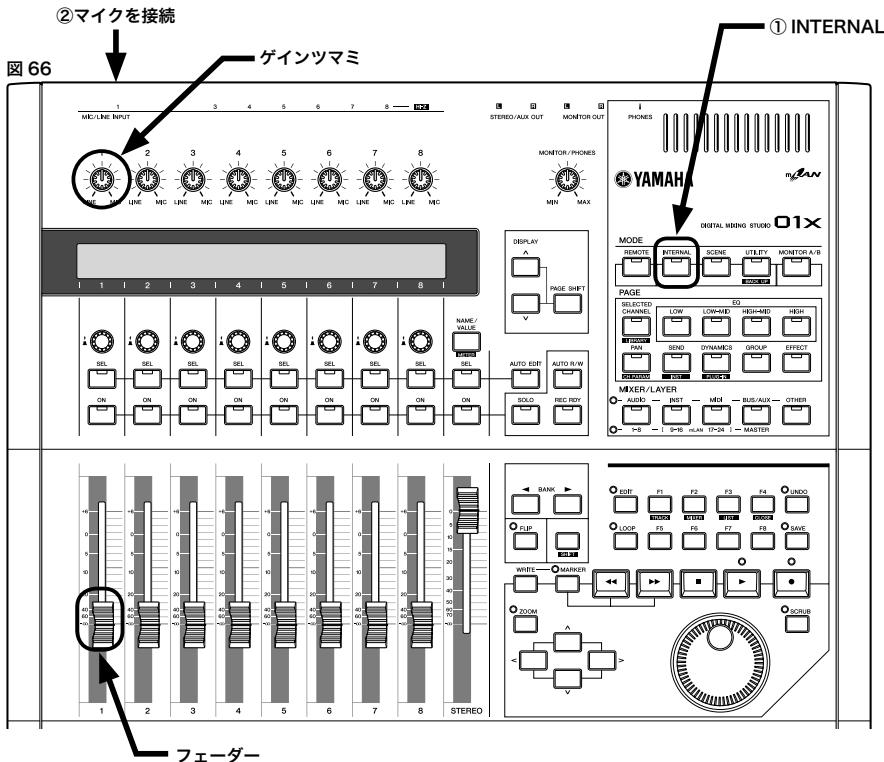
ここではダイナミックタイプを使用しますが、コンデンサーティプのマイクを使用する場合には、01X リアパネルにある「PHANTOM + 48V」のスイッチを ON にします。

図 65

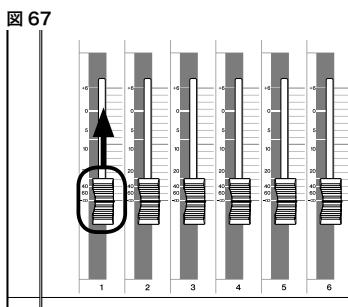


MODE セクションで [INTERNAL] ボタンを押します。

次にチャンネル1のフェーダーとゲインツマミが下がった状態で、マイクケーブルをインプットチャンネル1に接続します。



チャンネル1のフェーダーを規定レベル
である0dbまで上げます。



Hint
チャンネル1のチャンネルノブを
押すことにより、フェーダーが
自動的に0dbまで移動します。

Hint
01 Xの入力レベルを確認
したいときには、パネル
の【SHIFT】ボタンを押しながら
【METER】ボタンを押すと、ディスプ
レイ上にレベルが表示されます。

レベル調整

Cubase SX のメニューの「デバイス」から「ミキサー」を選択し、ミキサーを開きます（図 68）。

次に 01X のチャンネル 1 のゲインツマミを少しずつ上げてマイクに向かって声を出します（図 69）。すると Cubase SX のインプットチャンネル 1（Mono In 1）のレベルメーターが反応します（図 70）。ここで「C（クリップ）」ランプが点灯しない範囲で、できるだけゲインツマミを回して適度なレベルになるよう調整します。

図 68

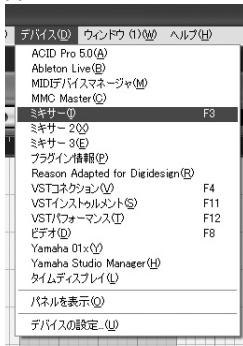


図 69

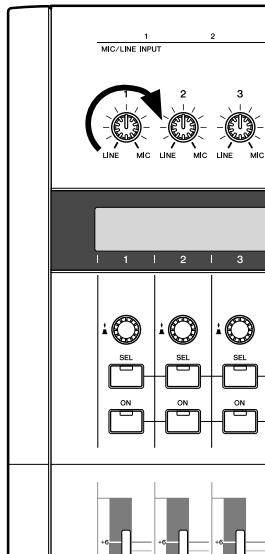


図 70

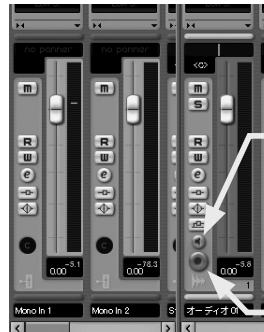


次にオーディオトラック 1 のチャンネルのインプットバスをクリックして現れるメニューから、「Mono In 1」を選択し（図 71）、録音可能ボタンとモニタリングボタンを点灯させます（図 72）。

図 71



図 72



モニタリング

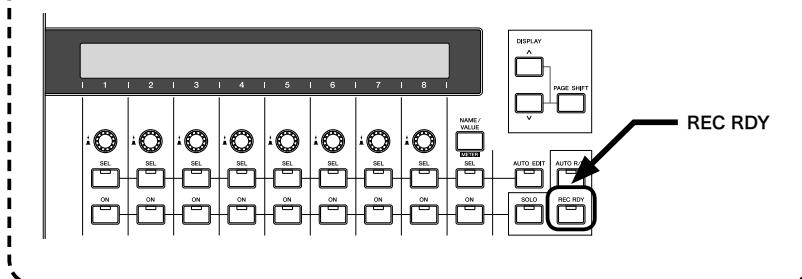
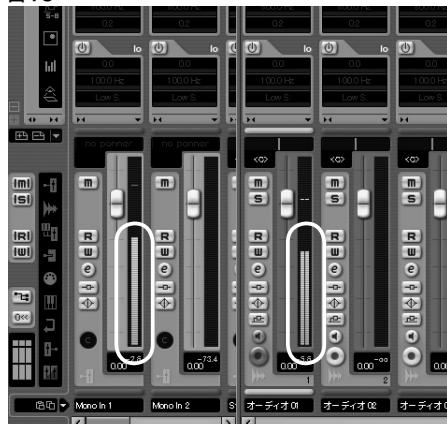
録音可能

この状態でもう一度マイクへ向かって声を出すと、オーディオトラック1のレベルメーターも反応します（図73）。



01 Xがリモートモードのとき、[REC RDY(レコードレディ)]ボタンを押して点灯させ、チャンネルの[ON]ボタンを押すことで、Cubase SXの録音可能ボタンをオンにすることができます。

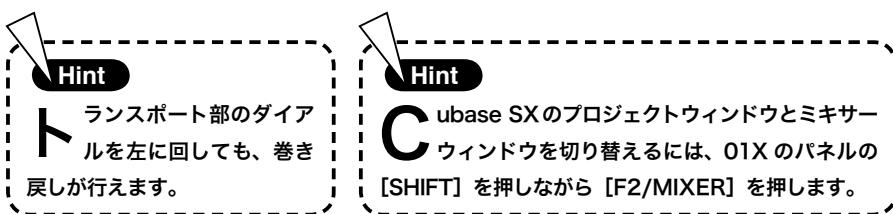
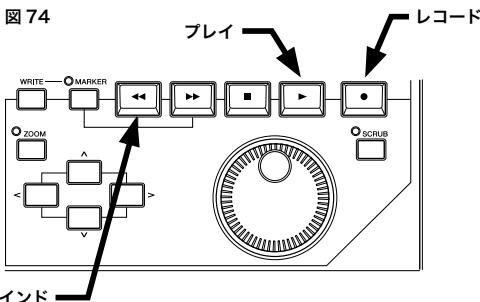
図 73



マイク録音開始

レベル調整が済んだら、いよいよ録音です。01Xのトランスポートの【●】(レコード) ボタンを押して、録音スタートです。

うまく録音できましたか？ トランプの録音が済んだら、録音可能ボタンとモニタリングボタンをクリックして解除し、01Xのトランスポートの【◀◀】(リワインド) ボタンで巻き戻しを行い、【▶】(プレイ) ボタンを押して再生してみましょう。



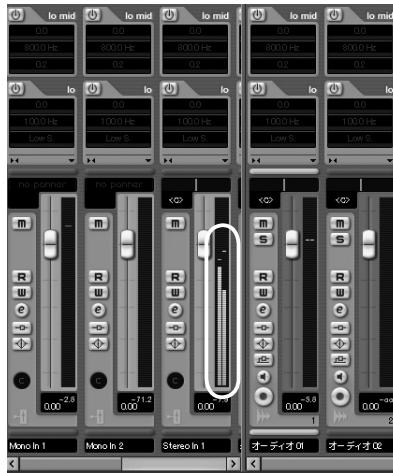
ステレオのライン楽器を録音する

続いてシンセサイザーなどのステレオのライン楽器を Cubase SX のトラック 3 (ステレオ) に録音してみましょう。

01X のインプットチャンネル 3、4 にシンセサイザーなどのライン楽器をステレオで接続します。マイク録音のときと同様に、01X のチャンネルフェーダーを 0db まで上げゲイントリムを調整します。

ライン楽器はマイクよりも出力レベルが高いため、それほど上げなくても済むはずです。Cubase SX のインプットチャンネル 3 (Stereo in 1) のレベルメーターが反応するので、適正なレベルを設定します (図 75)。

図 75



ステレオの楽器をペアリングする

ステレオ出力の楽器のレベルやバランスを取るときに、隣り合ったステレオチャネルでペアにしておくと、フェーダーなどのセッティングが連動し便利です。ここでは 3 と 4 をペアリングしてみましょう。

3 チャンネルの [SEL (セレクト)] ボタンを押したまま、4 チャンネルの [SEL] ボタンを押します (図 76)。するとディスプレイにはペアの設定が表示されます (図 77)。ここでチャンネルノブ [3] を押すと、ペアリングが行われ、3 チャンネルと 4 チャンネルのフェーダーどちらかを動かすと、もうひとつが追従するようになります。

図 76

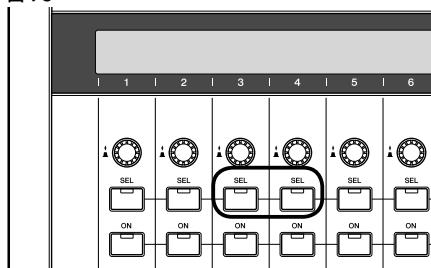
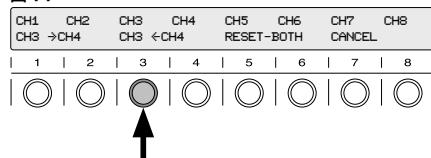


図 77



パンの設定

ステレオ楽器のステレオイメージをそのまま録音するために、パンの設定を行いましょう。

「PAGE」セクションの [PAN/CH PARAM] ボタンを何回か押して、ディスプレイに PAN を表示させます (図 78a、b)。チャンネルノブ 3、4 をそれぞれ左右に回してパンを設定します。

図 78a

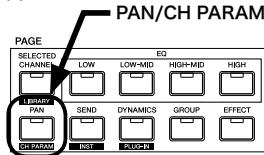
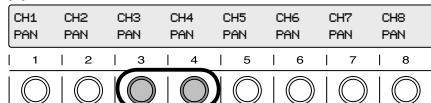


図 78b



ライン録音開始

Cubase SX のトラック 3 のインプットバスを「Stereo In 1」に設定し (図 79)、録音可能ボタンとモニタリングボタンをクリックして (図 80)、Cubase SX のミキサーのインプットチャンネル「Stereo In 1」で録音レベルを確認します (図 81)。

図 79



図 80

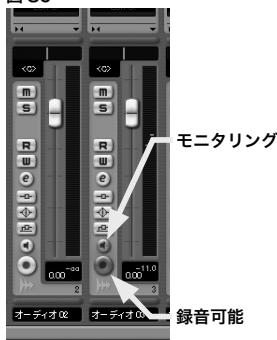
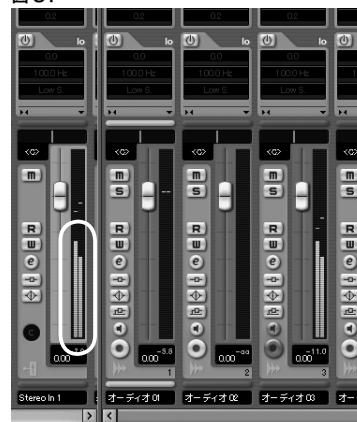


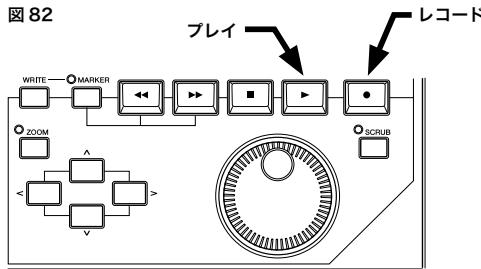
図 81



続いて 01X のトランスポート部の [●] (レコード) ボタンを押し、録音をスタートします。

録音が済んだら、録音可能ボタンとモニタリングボタンをクリックして解除し、[▶] (プレイ) ボタンを押して、確認してみましょう。

図 82



MIDI の入力

ここまでではオーディオトラックへの録音でしたが、今度は Cubase SX の MIDI トラックへ、MIDI キーボードを使用してリアルタイム入力をを行いましょう。

MIDI キーボードを 01X のリアパネルにある 2 系統の MIDI A、B のうち、ここでは MIDI A の IN に接続します。

MIDI トラックの追加と設定

Cubase SX のメニューの「プロジェクト」から「トラックを追加」そして「MIDI」を選択します (図 83)。すると MIDI トラックが作成されます (図 84)。

図 83

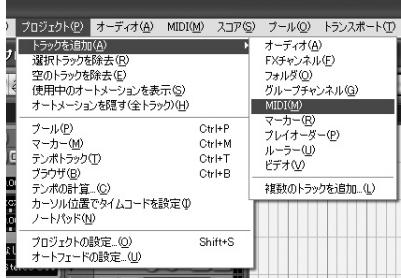


図 84



MIDI トラックをクリックして選択し、MIDI 入力ポートである「in」という項目が「mLAN MIDI In (2)」になっているのを確認します（図 85）。

図 85



VST インストゥルメントの入力

ここでは Cubase SX に付属している VST インストゥルメントの中から、リアルなサウンドが特長のドラム音源「LM-7」を使用します。

Cubase SX のメニューの「デバイス」から「VST インストゥルメント」をクリックすると（図 86）、「VST インストゥルメント」ウィンドウが開きます（図 87）。

図 86

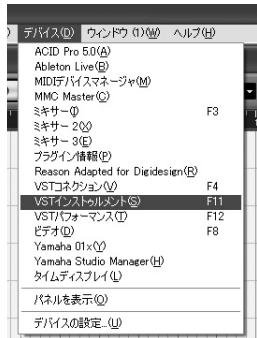


図 87



ここで1つのスロットをクリックすると、使用できる VST インストゥルメントが表示されます。ここでは「Drums」から「LM-7」をクリックし（図 88）、LM-7 を立ち上げます。（図 89）

図 88

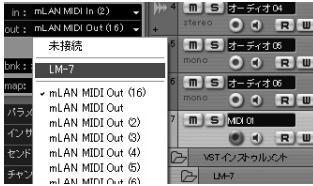


図 89



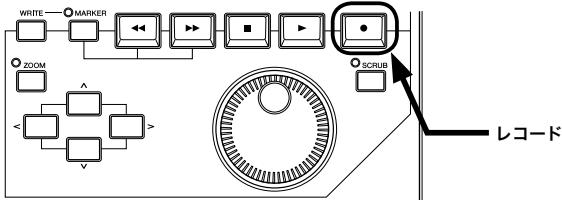
続いて MIDI 出力ポートである「out」の欄をクリックして「LM-7」に設定します(図 90)。MIDI キーボードを弾いて、LM-7 の音が鳴るかチェックしてみましょう。

図 90



これで準備は完了です。トラックの録音可能ボタンをクリックし、01X のトランスポートセクションの [●] (レコード) ボタンを押して、MIDI キーボードを弾き、入力を行います。

図 91



Chapter 2 では、01X のインプットチャンネルや MIDI ポートを利用した録音／入力を行いました。続いて Chapter 3 では、01X 内蔵のエフェクトを利用した録音方法について解説します。